

ROTOBO

Connecting Markets

ロシアNIS経済速報

一般社団法人 ROTOBO

2026年(令和8年)3月25日号 No.2019

目次

■ 混迷の中東情勢に対するロシアの反応	1
— 世界的な資源価格高騰で漁夫の利を狙う —	
■ 『ロシアNIS調査月報』2026年4月号のご案内	6
■ トピックス	7
あいおいニッセイ同和損保、ウズベキスタンで新技術デバイス販売へ／7	
ACSL、日ウクライナ・ドローン連携基盤に参画／7	
日ロさけ・ます漁業交渉が妥結／7	
米、対ベラルーシ制裁を緩和／8	
ロシア、硝酸アンモニアの輸出停止／8	

混迷の中東情勢に対するロシアの反応
— 世界的な資源価格高騰で漁夫の利を狙う —(一社)ROTOBO ロシアNIS経済研究所
主任 中馬 瑞貴

はじめに

2026年2月28日に発生した米国・イスラエルによる対イラン攻撃から約1カ月が経過した。この間、イランによる報復攻撃もあり、中東情勢は依然として緊迫した状態が続いている。とりわけ、イラン革命防衛隊がホルムズ海峡を航行する船舶への攻撃を宣言し、同海峡が事実上閉鎖されたことで、世界のエネルギー安全保障は大きく揺らぎ、国際社会の最大の関心事となっている。

事態は日々刻々と変化しており、今後の情勢や見通しについて断定的な評価を下すことは難しい。しかし、この1カ月間のロシアの動き、とりわけ政治高官や専門家の発言をたどることで、今回の危機がロシアに与える影響の輪郭が見えてきた。本稿では、それらの動向を整理し、ロシアが直面する可能性のある影響について考察する。

友好国イランとの微妙な距離感

米国・イスラエルによるイランに対するミサイル攻撃の直後の2月28日午後(モスクワ時間)にロシア外務省は、「主権国家に対する意図的かつ計画的な武力侵略行為であり、国際法の基本原則及び規範に直接違反することは疑いがない。侵略者の意図は明白で、武力と覇権的圧力に屈することを拒んだために望ましくないとみなした国家の秩序を解体し、指導部を排除することである」との声明